

J-PPARC放射性情 質漏れ事故で申し入れ

6月7日、東海村議会(村上邦男議長)は、全員協議会を開催し、加速器実験施設「J-PPARC」の放射性物質漏れ事故の状況などの説明を事業所から受けた。その後、日本原子力研究開発機構と施設を共同運営する高エネルギー加速器研究機構に対し、住民の安全確保の観点から、申し入れ書を提出した。

— 申し入れ内容 —

▼ 当該事故が生じた原因の究明、飛散させた放射性物質の状況、村民に対する健康への影響など、事実関係を厳格に確認すること。

▼ 施設の安全対策に万全な措置をとること。

▼ 職員及び研究者の意識改革と組織体制の再構築を図ること。

▼ 安全管理体制及び通報連絡体制の抜本的改善を図ること。



事業所からの謝罪説明

全員協議会 (6月3日)

幼保連携施設基本設計の報告 (村松保育所 宿幼稚園)

保育所と幼稚園の一体化における魅力を生かし、地域に開かれた子育てを支援する施設。耐震性能の確保や、水災時に備えて一時的に150人程度の避難可能なスペースを2階屋上に設け、子どもや高齢者・障がい者等の災害時要援護者の避難にも役立てる。

開所予定 ■ 平成27年1月

場所 ■ 村松コミセン西側

定員 ■ 140人(保育所枠90人、幼稚園枠50人)

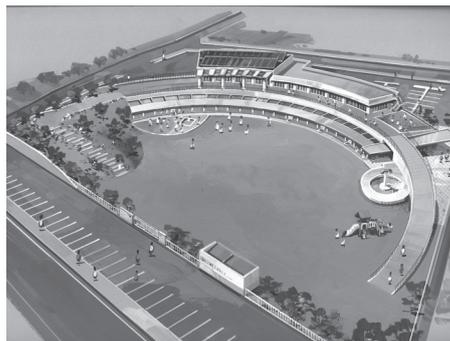
問 幼稚園と保育所では親が迎えに来る時間に差がある。迎いの遅い子が早く帰る子を見て、寂しい思いをしないよう動線を工夫してほしい。

答 早く帰る幼稚園児の姿が見えないよう保育所児童の午睡室は2階にある。スムーズに活動できるように配置している。

問 今は高台への避難訓練をしているが、今後は屋上に避難することしか考え

ないのか。

答 避難することを第一と考える、高台への避難訓練は引き続き実施していく。



幼保連携施設イメージ

原子力問題調査特別委員会 (7月3日)

請願趣旨・避難計画策定状況聴取

6月議会で新たに付託された、具体的な避難計画の策定ができないかぎり東海第二原発の再稼働は認めないとする請願について、請願者から説明を受けた。請願者は、住民の命と安全を真剣に考えてほ

しいなどの思いを述べた。

避難計画については、原子力安全対策課から、広域避難を県や関係市町村と協議していくと説明。委員から、県の計画を待たず、村から県に働きかけて共同作業で進めては

どうかなど積極的に進めるよう意見が出た。

また、東海第二原発のフィルタ付ベント設備と防潮堤工事の着工について、原電からの説明を求めることに決めた。